

建築主：有限会社季織苑
設計：飯島さとし建築設計室
株式会社まちづくり設計舎
施工：積水ハウス建設関東株式会社 千葉店
有限会社季織苑
所在地：千葉市若葉区小倉町863-3

入賞

一般建築物の部

～庭のある空間の豊かさを共感できるセルフカフェ～

café madoi

千葉市住宅街バス通りに面した場所に緑溢れる敷地が広がる。緑の向こうに大屋根の建物が垣間見える。「建物」と「庭」が手を組んで生まれたcafé madoiだ。造園業を営む会社が運営し、緑溢れる庭のある家を開放したようなセルフカフェやシェアキッチンなど、まちの人の「したい」を拾いあげる場を目指している。

空間設計を「庭」からスタートし、造園と建築の対話と価値の共有を重ねながらすすめたという。来訪者は場所により違った視点で内外の空間と緑を体感できる。



全景(冬) [街との調和]



入り口(夏) [外にいるような空間]

(撮影全て:伏木 博)

大通りには敷地内の歩道側バス停前にまちの人が座れるベンチを設置。歩道の街路樹と敷地内の緑も調和し「まちの庭」として広がりを生みだしている。

大屋根の下は木製デッキに点在するような室配置とし、ガラスで内外を隔てた外のようなキッチン併設の空間や上方のテーブル席からは空と枝葉の広がりを感じ、下方のカウンター席では土や下草、水音が間近に感じられる。緑や草花がそこにある必然性や季節の移ろう様子が、自然のままのように計算されているのが見事だ。造園設計の重要性を再認識した。

café madoiの来訪者は何度訪れても新しい発見がある。多くの「したい」が生まれるのが期待できる。(藤本 香)

建築主：株式会社飯沼本家
設計：建築設計事務所 山田屋
施工：岩瀬建築有限会社
所在地：印旛郡酒々井町馬橋106

入賞

一般建築物の部

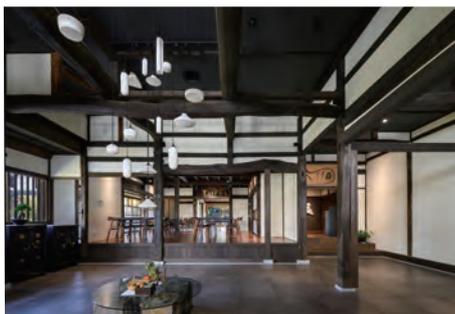
～江戸中期の風を感じる主屋～

蔵元飯沼本家 主屋

酒々井町に飯沼本家があり、飯沼家が酒造りを家業にされるのは地名の元となるのを感じる。今から400年程前より、この地でブランド名「甲子」を世に出し、日本酒の源となる清水を育むために、森を健全に守り、敷地内のいくつもの歴史的建築物を継承し、蔵元の姿を守り続けられている主屋の改修、増築、住宅から飲食店への用途変更を完結した建物がとても大きく目に映る。本建物は市街化調整区域内である中、法適合された設計者に驚かされる。また、その様な過程の中、大きな注目点として耐震改修も工夫されたことが窺える。主要な出入



全景



土間から客室を眺める

(撮影全て:小野吉彦)

口から土間のホールがあり、見上げれば江戸中期の小屋組が印象的で心地よく来訪者を迎える空間になっている。旧住居の座敷部床は、畳から木製床とし、イス・テーブルの飲食形式とされており、とてもシンプルな空間を造られていて落ち着く。天井や壁も和風に仕上り、照明もやわらかくて良い。食事をしながら手入れされた中庭も鑑賞されれば、ますます人々の心に刻まれることと思う。廊下他洗面所も広く使え方への配慮がされた改修となっている。この主屋そして敷地内のいくつもの歴史的建築物を、今後も大切に活用されることがこれからの未来へ続くことを願う。

(竹江 文章)